

# 西華産業 個人投資家のための 会社説明会 2024年3月14日

西華産業株式会社

(東証プライム市場 証券コード8061)





1. 西華産業について
2. 2023年度の業績見通し
3. 成長戦略
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応と株主還元
5. 事業を下支えする人的資本（社員）の取り組み
6. 社長メッセージ

— 参考資料 —



1.

# 西華産業について

社名	 <b>西華産業株式会社</b> SEIKA CORPORATION		
本社所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号（新東京ビル3F）		
設立	1947(昭和22)年10月1日		
代表者	代表取締役社長 櫻井 昭彦		
資本金	67億28百万円		
従業員数	連結：1,025名 単体：340名 （2023年9月末現在）		
主な事業内容	各種プラント、機械装置・機器類、環境保全設備、電子情報システム機器類の販売および輸出入		
西華産業 各拠点	国内：本社、大阪支社、福岡支店、広島支店ほか 海外：台北支店、ソウル支店ほか	=全29拠点 =全3拠点	
国内外グループ 拠点数	国内：10社 国内拠点：98拠点	海外：16社 海外拠点：26拠点	=全124拠点
企業理念	“ 社業の発展を通じ社会に貢献する これをわが社の信条とする ”		

本社：丸の内 新東京ビル

西華産業は2022年10月1日をもって会社創立75周年を迎えました。  
 伝統と変革を両軸として、本年度より開始した中期経営計画「VIORB2030 Phase1」のもと、  
 さらなる飛躍を実現していきます。

創業 事業基盤創成

1947~

発足時の基盤を築いた炭車



1954 ドイツに海外駐在員事務所を開設



1961 東京証券取引所第一部上場

高度経済成長とともに発展

1970~

1974 労働組合結成

1983 本社を東京に移転



1986 米国へ事業進出



グループの拡大と経営体質の強化

1990~

1997 創立50周年

2005 日本ダイヤバルブを子会社化



「カーボンニュートラル社会」に向けた経営

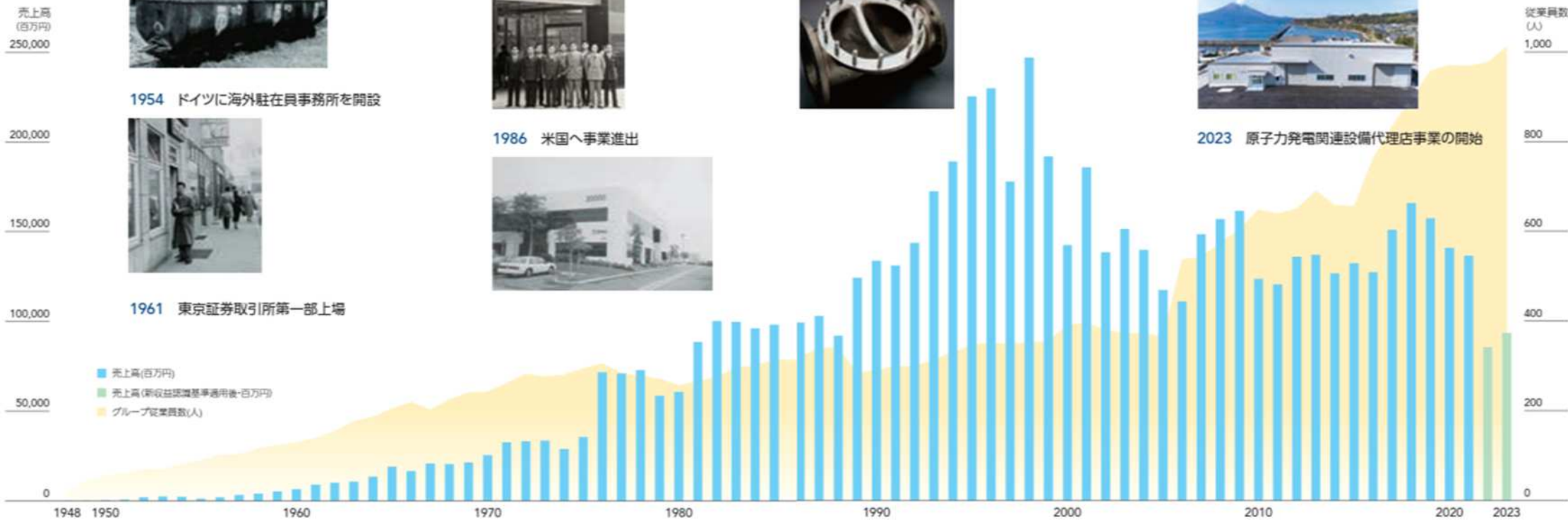
2010~

2016 敷島機器を子会社化

2020 セイカダイヤエンジン設立

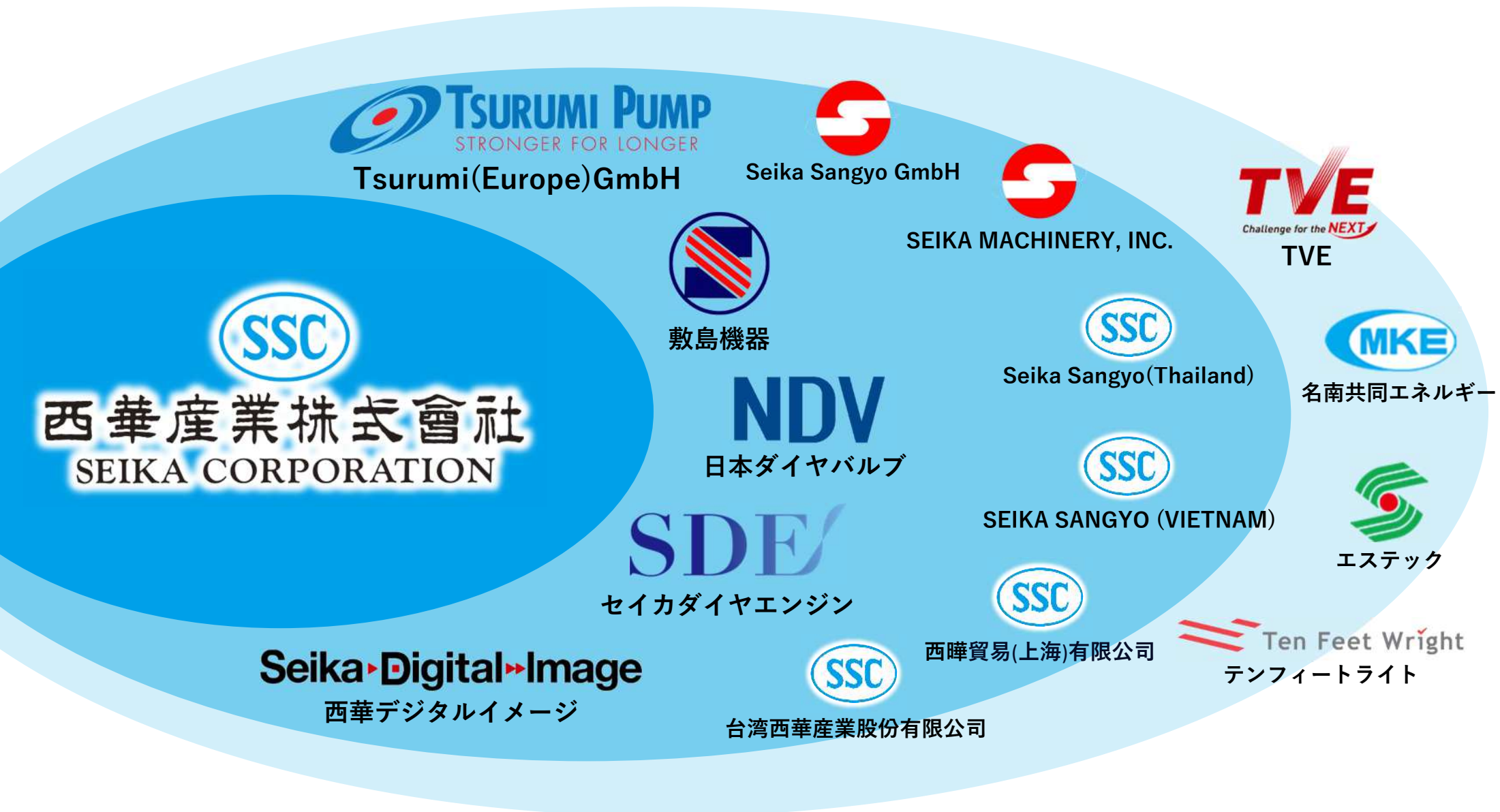


2023 原子力発電関連設備代理店事業の開始



連結子会社（国内/海外）

持分法適用会社





# 事業紹介

火力・原子力・再エネ等  
エネルギー発電関連設備 等



エネルギー  
事業



産業機械  
事業



プロダクト  
事業

SSC



機能性素材・食品飲料等生産設備、  
プラント機器 等

要素機械、自動化装置、半導体、  
特殊計測等関連製品 等



## ⚡ エネルギー事業

- 火力・原子力・水力・バイオマスなど国内発電所向け関連設備販売
- 各発電所・プラントの定期検査やアフターメンテナンス



### 【中計 取り組み方針】

電力の安定供給を支える使命の遂行、加速するGXへの追従

#### 火力発電

- 脱炭素化に向け高効率ガスタービンの拡販
- 水素・アンモニア炊きガスタービンの拡販
- 既存発電設備の延命化への貢献
- 安定操業に向けた確実な保守点検

#### 原子力発電

- 定期点検や保守業務

#### 再生可能エネルギー

- 太陽光・バイオマス・水力発電等  
エネルギー関連設備の拡販及び同事業への参画



発電所



化学プラント



発電設備

## 三菱重工

「原子力は確立したカーボンフリーかつ大規模・安定電源であり、安全性の確保を大前提に将来に亘って原子力の活用が必須と認識」

- 既設プラント（PWR/BWR）の再稼働・特重設置
- 再稼働後の安全安定運転の実現/継続的安全性向上
- 燃料サイクルの確立
- 世界最高水準の安全性を実現する革新軽水炉「SRZ-1200」の開発・実用化
- 将来炉（小型炉・高温ガス炉・高速炉・マイクロ炉）及び夢のエネルギー源である核融合炉の開発推進



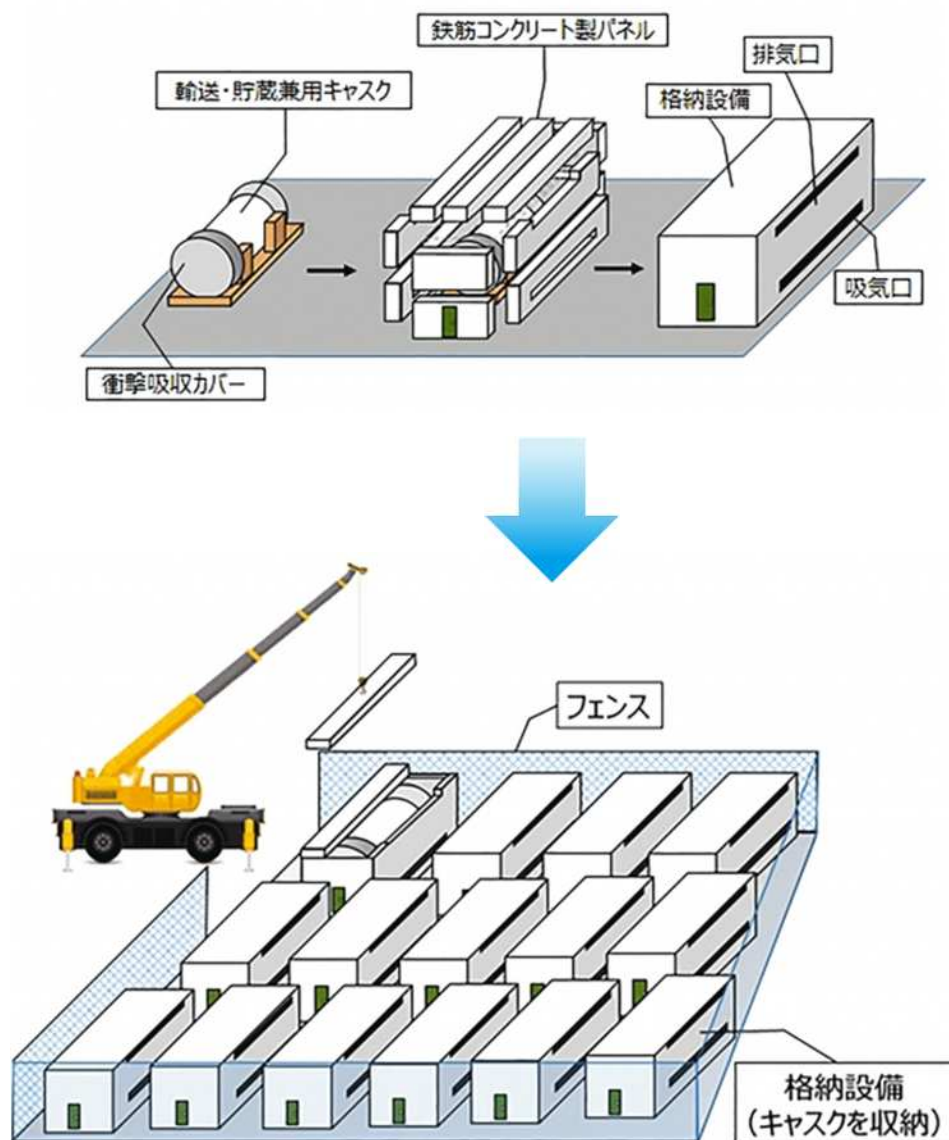
- ✓ 関西、四国、九州の計12基のPWR型を担当
- ✓ 主業務は法令に基づく13カ月ごとの定期点検や保守業務
- ✓ 運転期間延長に伴う主要機器の更新商談や、燃料リサイクル関連商談（乾式キャスクなど）への取り組み
- ✓ 将来に向けた次世代革新炉の建設商談に期待



本年、「第7次エネルギー基本政策」発表の見通し

# 乾式キャスクについて

## 設置方法イメージ



## 【乾式キャスクとは】

「湿式貯蔵」によって十分に冷えた使用済燃料を「乾式キャスク」と呼ばれる金属製の頑丈な容器に収納し、空気の自然対流によって冷却する方法です。

乾式貯蔵は、日本では茨城県那珂郡東海村にある日本原子力発電株式会社の東海第二発電所などで、採用・実施されています。

また、愛媛県西宇和郡伊方町にある四国電力株式会社伊方発電所、佐賀県東松浦郡玄海町にある九州電力株式会社玄海原子力発電所、静岡県御前崎市にある中部電力株式会社浜岡原子力発電所の各発電所や、青森県むつ市にあるリサイクル燃料貯蔵をおこなうリサイクル燃料貯蔵株式会社のリサイクル燃料備蓄センターでも、乾式貯蔵を申請しています。海外では、米国やスイスなどで実績があります。



## 産業機械事業

- 繊維、フィルム、食品・飲料などの幅広い一般産業向けの各種設備・設備等
- 工場プロセスの自動化・省人化設備等



### 【中計 取り組み方針】

#### 社会環境ニーズに呼応した総合的提案の実現

##### 省エネ・省人化、DX

- 食品飲料・フィルム等、業界ごとに最適な自動化・省資源化設備のご提案
- ロボット等を活用したDX化推進

##### サーキュラーエコノミー

- 繊維・プラスチックを軸とした資源のリサイクル・リユースビジネスの推進
- 新技術・商材の発掘と既存事業とのミックス

##### ソリューションビジネス

- 機器単体の販売ではなく、顧客ニーズに対し総合的に対応した営業をさらに深化



フィルム関連設備



工場内自動立体倉庫

## 🏭 プロダクト事業

- 船舶用エンジン、各種バルブ、プラント設備点検、計測機器、水中ポンプ等
- その他事業



### 【中計 取り組み方針】

オンリーワンを目指し、製品競争力・サプライチェーンの強化

#### 西華産業、西華デジタルイメージ

- 海外市場も含め強い商材の発掘
- 半導体事業の強化

#### 日本ダイヤバルブ

- 生産・供給能力の増強のための設備投資
- 技術優位性確保のための開発

#### Tsurumi(Europe)GmbH

- 欧州における販売代理店の維持・拡大
- 欧州のインフラプロジェクト捕捉と営業強化

#### セイカダイヤエンジン、敷島機器

- 船舶用エンジンの取扱経験を活かした関連市場・機器の開拓



日本ダイヤバルブ  
ダイヤフラム弁



Tsurumi (Europe) GmbHグループ  
水中ポンプ



セイカダイヤエンジン  
船用エンジン



西華産業  
ドローン点検サービス



## 2.

# 2023年度の業績見通し

# 2024年3月期 連結業績予想

	2024年3月期 第3四半期実績	2024年3月期 通期予想	進捗率	中計目標
				2026年度
取扱高 (注)	1,432.6 億円	<b>2,000</b> 億円	71.6 %	—
売上高	606.3 億円	<b>850</b> 億円	71.3 %	<b>1,100</b> 億円
営業利益	34.5 億円	<b>45</b> 億円	76.6 %	<b>52</b> 億円
経常利益	37.6 億円	<b>50</b> 億円	75.3 %	<b>52</b> 億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	25.0 億円	<b><u>34</u></b> 億円	73.5 %	<b><u>35</u></b> 億円

(※1) 連結業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しております。

(※2) 「取扱高」については、「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合における数値となります。

# 2024年3月期 セグメント別連結業績予想

(億円)

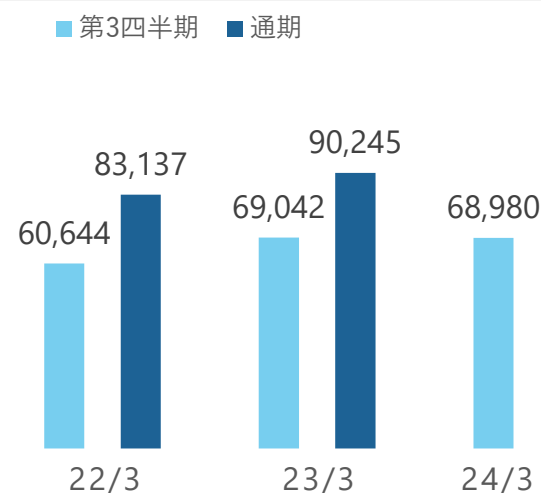
	取扱高			売上高			セグメント利益		
	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 予想	増減額	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 予想	増減額	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 予想	増減額
エネルギー事業	1,108	<b>1,420</b>	+312	312	<b>296</b>	▲16	21	<b>13</b>	▲8
産業機械事業	377	<b>300</b>	▲77	349	<b>274</b>	▲75	0	<b>3</b>	+3
プロダクト事業	271	<b>280</b>	+9	271	<b>280</b>	+9	26	<b>29</b>	+3
合計	1,757	<b>2,000</b>	+243	933	<b>850</b>	▲83	47	<b>45</b> (37)	▲2

( )は期初予想

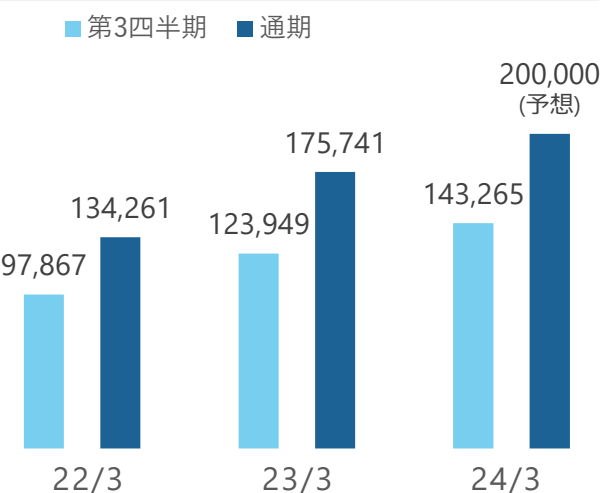


# 過去3ヵ年の推移

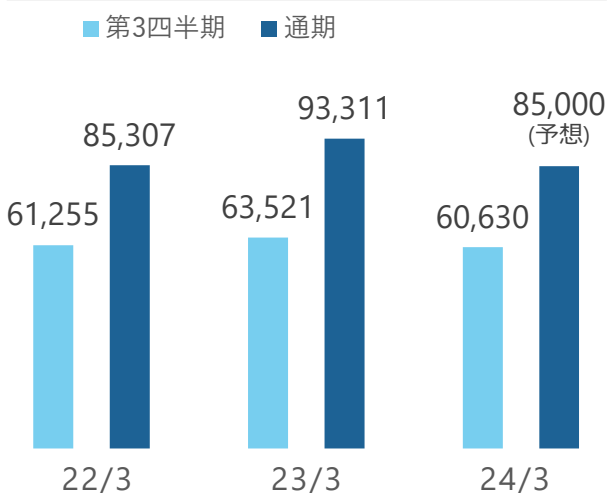
受注高 (百万円)



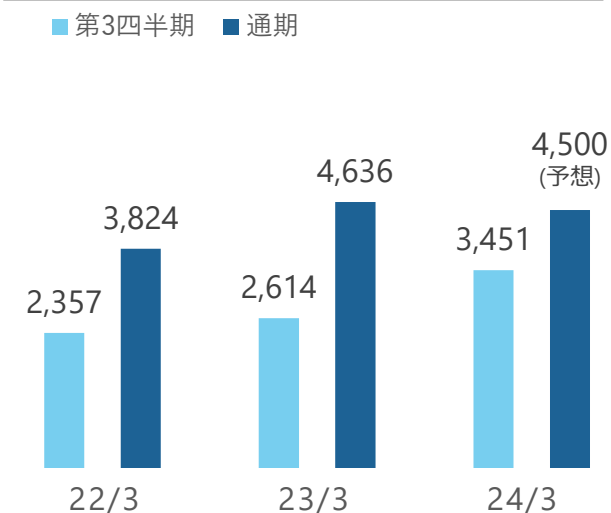
取扱高 (百万円)



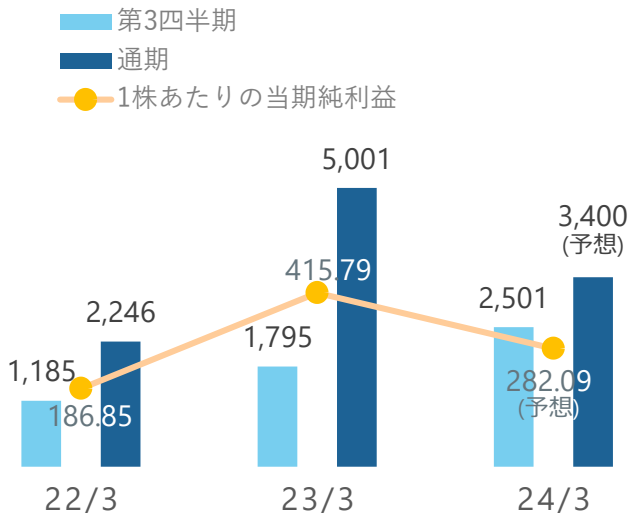
売上高 (百万円)



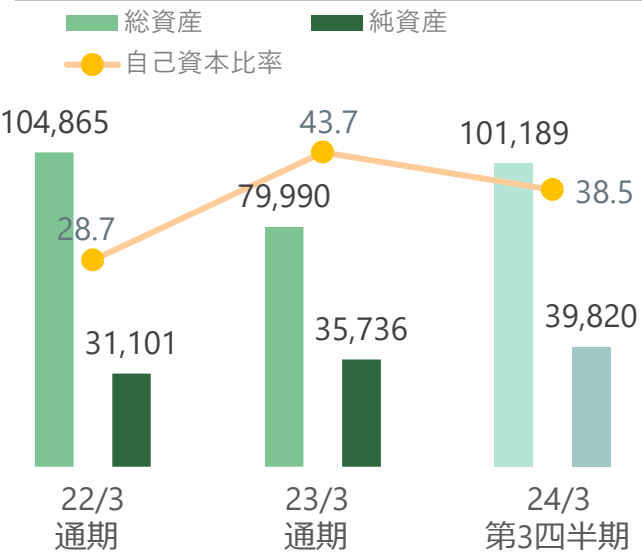
営業利益 (百万円)



親会社に帰属する当期純利益 (百万円)  
1株当たりの当期純利益 (円)



総資産／純資産 (百万円)  
自己資本比率 (%)





# 3.

## 成長戦略

## ◎事業面での重点分野

脱炭素

省エネ  
省資源

サーキュラー  
エコノミー

DX

中期経営計画  
「VIORB2030 Phase1」

「VIORB2030 最終フェーズ」

上方修正

2023年度  
連結当期純利益  
期初予想

29億円

2023年度  
連結当期純利益  
修正予想

34億円

2026年度  
連結当期純利益  
到達目標

35億円

2030年度  
連結当期純利益  
到達目標

45億円

# 長期経営ビジョン「VIORB 2030」

長期経営ビジョン「VIORB 2030」で掲げる当期純利益目標：45億円/2030年度の前倒し達成を目指すため、成長戦略（成長投資）を加速化する

## 当社の強み

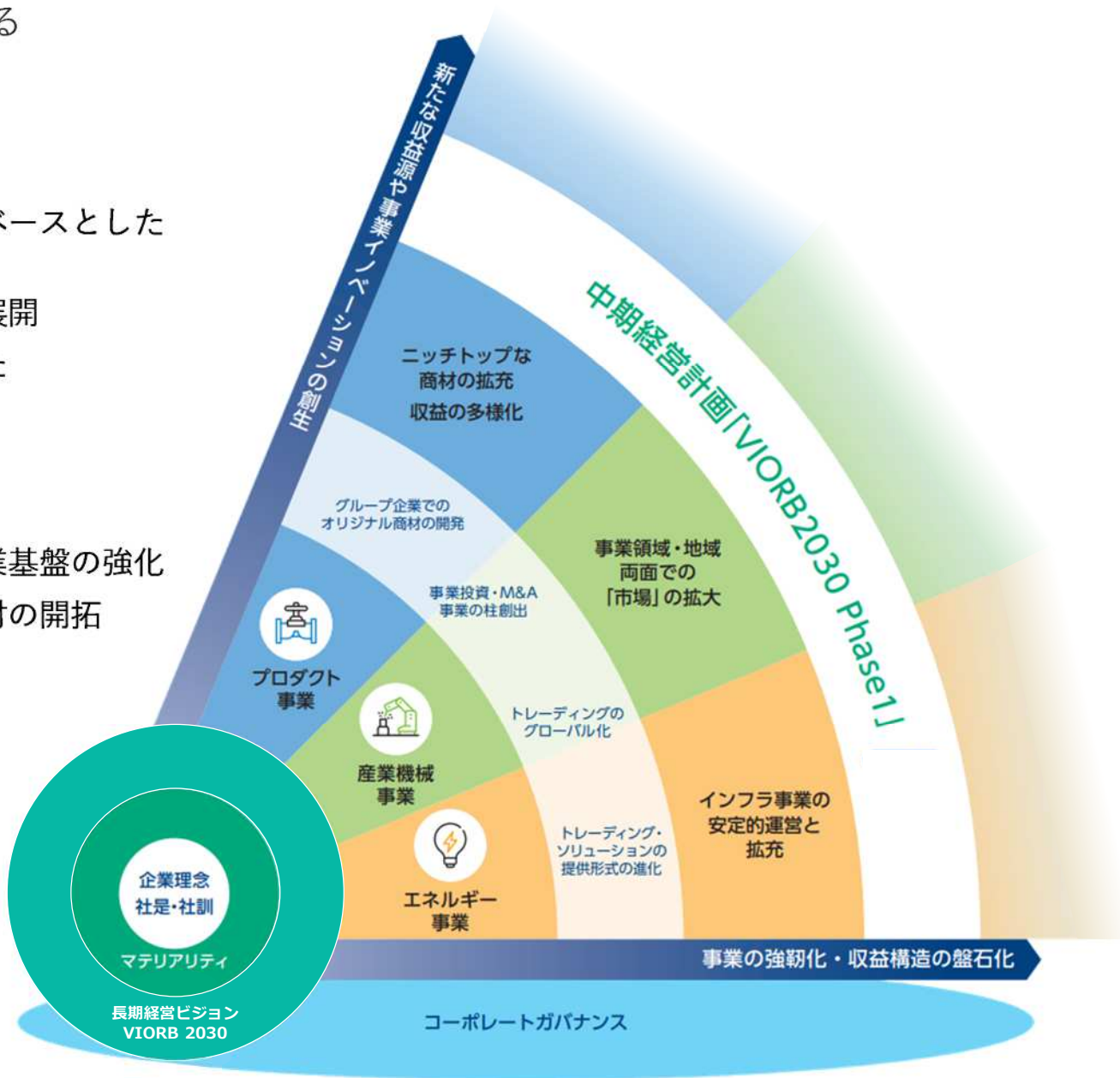
- 大手取引先との強固な信頼関係をベースとしたトレーディング
- ニッチで競争力の高い独自製品の展開
- 多様なメーカーとの取引を活かした幅広い業種への商品提案力

## 営業戦略

- エネルギー事業をベースとする事業基盤の強化
- 戦略的事業投資で新たな商権・商材の開拓

## 事業ポートフォリオの再構築

- 成長性を見極めによる選択と集中、資産の入替え



従来

「VIORB2030 Phase1」

## 【エネルギー事業】

**水素ガスタービン開発**  
CO<sub>2</sub>排出ゼロ



水素混焼・専焼ガスタービン

**アンモニアガスタービン開発**  
CO<sub>2</sub>排出ゼロ



Ammonia gas



+ 補完的M&A  
(事業の更なる骨太化)

+ 火力発電事業  
脱炭素に向けアンモニア・水素活用商談の取り組み (推進中)

+ 原子力発電  
保守点検 大型更新工事等 (2023年4月～)

小中型水力発電商談開拓 (推進中)

### 従来

火力発電  
バイオマス発電  
水力発電 等

新設商談

保守点検商談

TVE持分法化で  
商権拡大と持分法化  
(2023年3月～)





## 【産業機械事業】



**従来**  
 化学、繊維、食品など  
 様々な業界へ  
 生産設備を販売

**+** 海外展開  
 欧米、中国、  
 東南アジアに  
 現地法人設立

**+** 時代に即した商材の開拓  
 省エネ・省資源  
 サークュラーエコノミー  
 (推進中)

**+** 事業活動体制強化  
 台湾西華産業股份有限公司 設立  
 (2023年11月)

**+** 新たなビジネス  
 スタイルの開発  
 海外メンテナンス事業  
 サブスク事業 等  
 (検討課題)



従来

「VIORB2030 Phase1」

## 【プロダクト事業】



敷島機器



+ 強い商材の発掘  
(事業投資、M&A)

+ 新たな事業投資

- ・エイトノットによる自動航行システム (2023年8月)
- ・新松浦漁協との藻場造成 (2023年9月)
- ・田中造船との株式取得契約締結 (2024年1月)

+ 船用エンジン販売

- ・敷島機器の株式取得 (2016年3月)
- ・セイカダイヤエンジン設立 (2020年10月)

ドローン事業開始

- ・テラドローン社への出資 (2022年3月)

NDV (Thailand) Co.,Ltd.設立 (2015年3月)

### 従来

- ・ 特色ある海外製品の販売 (記憶式温度計、ガス分析装置等)
- ・ 電気基板の販売
- ・ 建設工事用水中ポンプ販売(TEG)
- ・ 産業用バルブ製造/販売(NDV)





## 4.

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応 と 株主還元



現状  
認識

## 【事業面での分析】

- 三菱重工業の発電設備販売代理店としての永年の実績から得られた顧客との信頼関係、人的関係は揺るぎないもので、当社の競争力の基盤となっている。
- 成長の柱となる原子力発電関連ビジネスを獲得するなど、エネルギー事業では安定・成長路線が確かになっている。
- 産業機械事業での新規事業分野開拓や、差別化のための経営資源の投入が不足している。
- 新しい収益機会の創出という観点で、グローバルネットワークが他の機械商社との相対的優位性に欠けている。

## 【市場面での分析】

- 連結当期純利益は改善傾向にあり、資産の入れ替えも進めているが、株価に十分に反映されず、低いPBR（2023年9月末：0.75倍）で推移し、PERの改善を要す。
- 中期経営計画「VIORB2030 Phase1」における「配当性向の目途35%」は、プライム上場企業における株主還元（総還元性向、配当性向等）の動向と比較すると十分とは言えない。
- 中期経営計画「VIORB2030 Phase1」における「ROE目標8.0%台維持」は、機関投資家が中長期的に望ましいとするROE水準としては不十分。
- 株主数の漸減傾向がみられ、個人株主の固定化が進んでおり、かつ、出来高が少ないこともあり、当社の取り組みが市場に理解されにくい状況。

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

## 方針

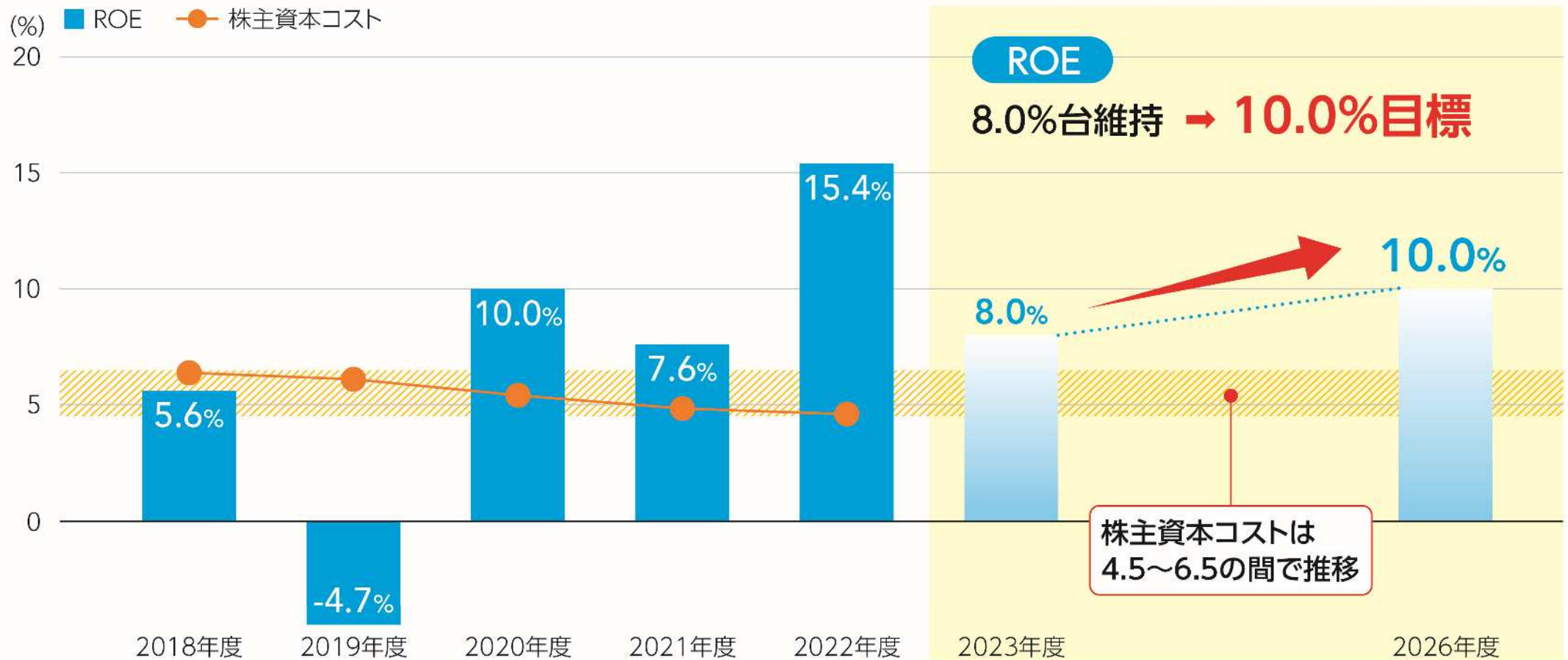
- 長期経営ビジョン「VIORB 2030」で掲げる連結当期純利益目標：45億円（2030年度）の前倒し達成を目指す。
- 企業価値向上に向けて財務レバレッジを活用した事業投資、ならびに株主還元をともに強化する。

## 具体策

- ROE目標（現状8.0%台維持）を10.0%へ上方修正し、長期経営ビジョンの収益目標を前倒し達成するため、PDCAサイクルを効果的に回す組織体制を整備する。
- 財務健全性を維持しつつ、強いB/Sを活かし、100億円規模の成長投資を実行。
- 株主還元の方針を「配当性向」から「総還元性向」へ変更し、その水準について45%を目途とし、株主還元を強化する。
- 政策保有株式の縮減を進め、計画通り2024年度までに連結純資産の20%を下回る水準を目指し、将来的には10%までの縮減を検討。
- 株主優待制度を導入し、新しい株主を呼び込み、売買取引活性化を目指す。
- 当社の取り組みが幅広く理解されるよう、情報開示・投資家との対話・IRを強化する。
- 持続的成長に向けた健全なインセンティブとして機能する役員報酬制度を導入する。

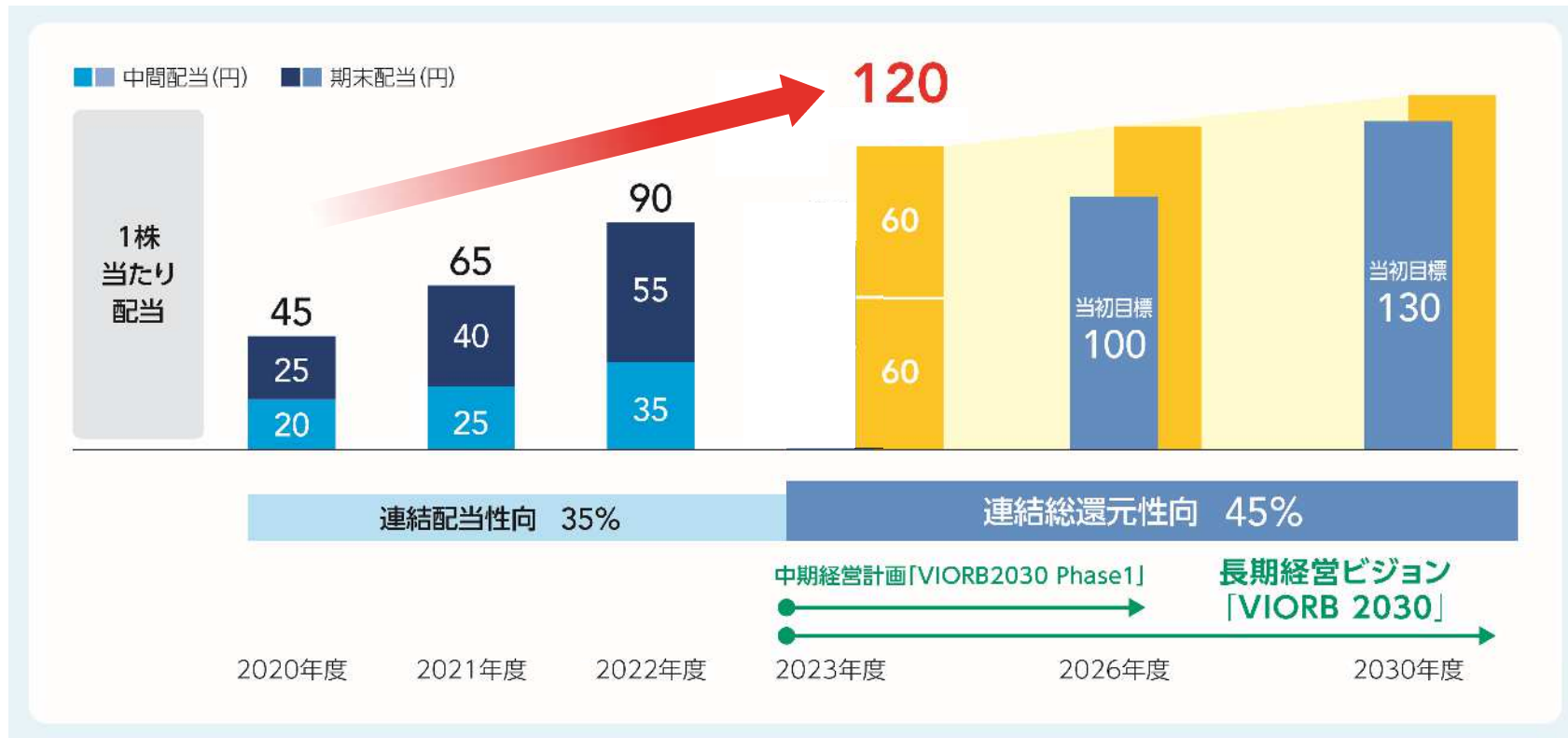
# ROE目標の上方修正

資本効率を意識した事業を推進し、ROE目標（現状8.0%台維持）を上方修正し、10.0%目標とする



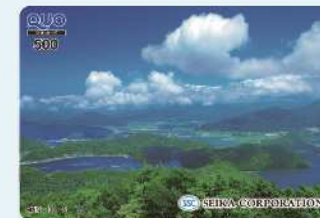
# 株主還元強化・株主優待制度の導入

株主還元の方法を、「配当性向」から「総還元性向」へ変更し、その水準について45%を目途とし、株主還元を強化する



当社の認知度向上と売買取引活性化を図るため、株主優待制度を導入

保有株式数	優待内容
100～299株	クオカード 1,000円分
300～499株	クオカード 2,000円分
500株～	クオカード 3,000円分



※券面デザインは変更となる場合がございます



# 5.

## 人的資本の取り組み

## 人材育成

- 社員一人ひとりの個性を尊重し、本人の成長意欲を高めるための環境づくりを推進
- 高度な専門性を伴う実務能力の向上と、幅広い知識・能力の習得を目的に、経営戦略の実現を担う人材の育成（教育研修費用）
- 個人の成長を促し組織の能力・機能向上に資する制度の構築（人事制度改革）
- 経営者として確実な成長を促すためのサクセッションプランを整備（グループ経営人材の育成）

## 人事制度改革 (2024年度～)

- 年功的な運用からの脱却
- 個人の成長を促し組織の能力・機能向上に資する制度の構築
- 個人の能力等の適正評価と昇給等への反映
- 総合職、一般職等の職掌をなくし、人材の最適配置を図る

### 【採用制度の多様化】

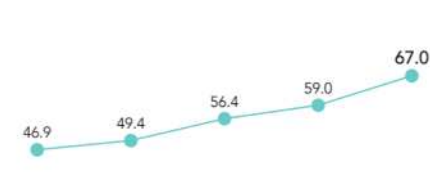
エキスパート	各事業の特性により固有に要求される高い専門性や経験を備える人材を積極的に採用
エリア (地域限定)	各事業の特性や地域性等の事業環境に合わせて、各拠点での事業継続性を担保し、且つ、従業員の働き方の多様性に対応するため、各拠点に勤務地域を限定する人材を積極的に採用
キャリア・リターン	これまでに西華産業の社員として働いたことがあり、自己都合により退職した方を対象とした採用
グループ 人材活用	グループ会社間における人事(求人・離職)情報の連携を深め、優秀な人材のグループ企業内における最適配置を図る取り組み

従業員満足度調査(当社・業界平均)(%)

● 満足・当社 ○ 満足・業界平均

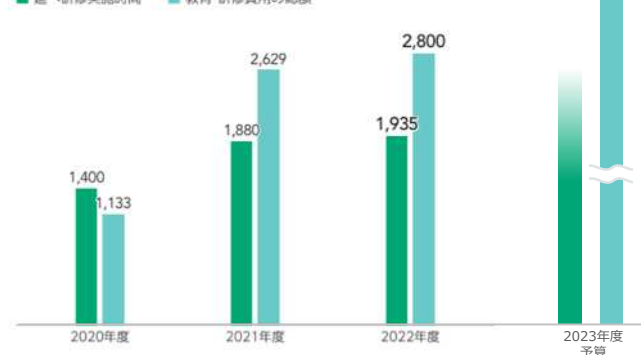


有給休暇取得率(%)



延べ研修実施時間(時間)/教育・研修費用の総額(万円)

■ 延べ研修実施時間 ■ 教育・研修費用の総額





# 6.

## 社長メッセージ

# 社長メッセージ

2

- 2023年度の業績見通しを踏まえ、中期経営計画「VIORB2030 Phase1」の目標数値の見直し
- 現場力の向上と取扱商材の開拓により、既存事業の収益拡大を図ることで、長期ビジョン数値目標の前倒し達成を目指す

✓営業スタイルの変化

✓ビジネス環境の変化

✓100億円規模の事業投資

1

- 日本のエネルギー供給を担う重要ポジションに転換
- 経営理念（社是）と日常業務がビルトインし、社員の意識が向上。また、コンプライアンスの意識にも好影響

3

- 新たな市場創出による収益獲得
- サブスク、レンタル事業や海外メンテナンス事業に挑戦

「VIORB2030 Phase1」

「VIORB2030 Phase2」

もう一回りの成長  
「威風堂々とした一流企業へ変身」  
“Post 2030 VISION”

長期経営ビジョン 「VIORB 2030」



将来の予測に関する注意事項：

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、若しくは不確定な要因により大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

# ご清聴ありがとうございました



# 参考資料



# 2024年3月期第3四半期 連結決算概要

## 実績：当期(第3四半期)純利益25.0億円 [前年同期比 +7.0億円]

- 原子力発電所向け三菱重工代理店業務開始による拠点網設置や、人的資本への投資（人件費、教育研修費）等による一般管理費増加があったものの、連結子会社における業績が順調に推移していることや、個々の商談の利益率改善により、当期純利益は増加。

## 通期予想：当期純利益34億円

- 新しく開始した原子力発電所向け三菱重工代理店業務や、プロダクト事業における競争力ある商材の好調な販売に支えられ、当期純利益は34億円（当初予想29億円）の見通し。
- エネルギー事業の活発な受注により、受注残高の積み増しが見込まれ、中期経営計画「VIORB2030 Phase 1」の当期純利益目標の前倒し達成も視野に。

## 株主還元：総還元性向45%目途

- 配当額 中間配当60円/年間配当予想120円（前年配当額90円）
- 株主優待制度の導入

保有株式数	優待内容
100～299株	1,000円分のQUOカード
300～499株	2,000円分のQUOカード
500株～	3,000円分のQUOカード

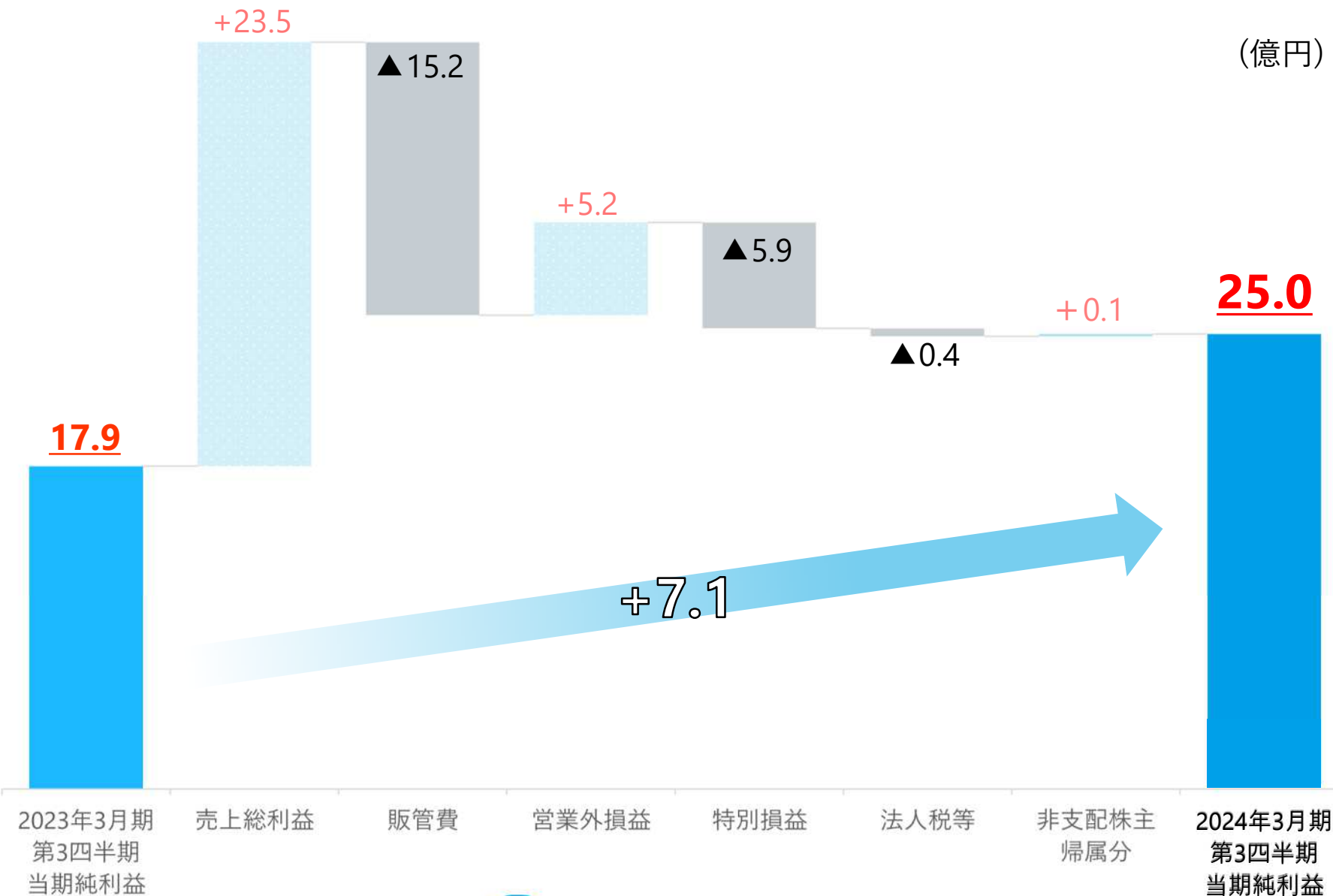
# 2024年3月期第3四半期 連結決算概要

	2023年3月期 第3四半期累計実績	2024年3月期 第3四半期累計実績	増減率 (前年同期比)
取扱高	1,239.4 億円	<b>1,432.6</b> 億円	+15.6 %
売上高	635.2 億円	<b>606.3</b> 億円	▲4.6 %
営業利益	26.1 億円	<b>34.5</b> 億円	+32.0 %
経常利益	24.1 億円	<b>37.6</b> 億円	+56.2 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	17.9 億円	<b>25.0</b> 億円	+39.3 %

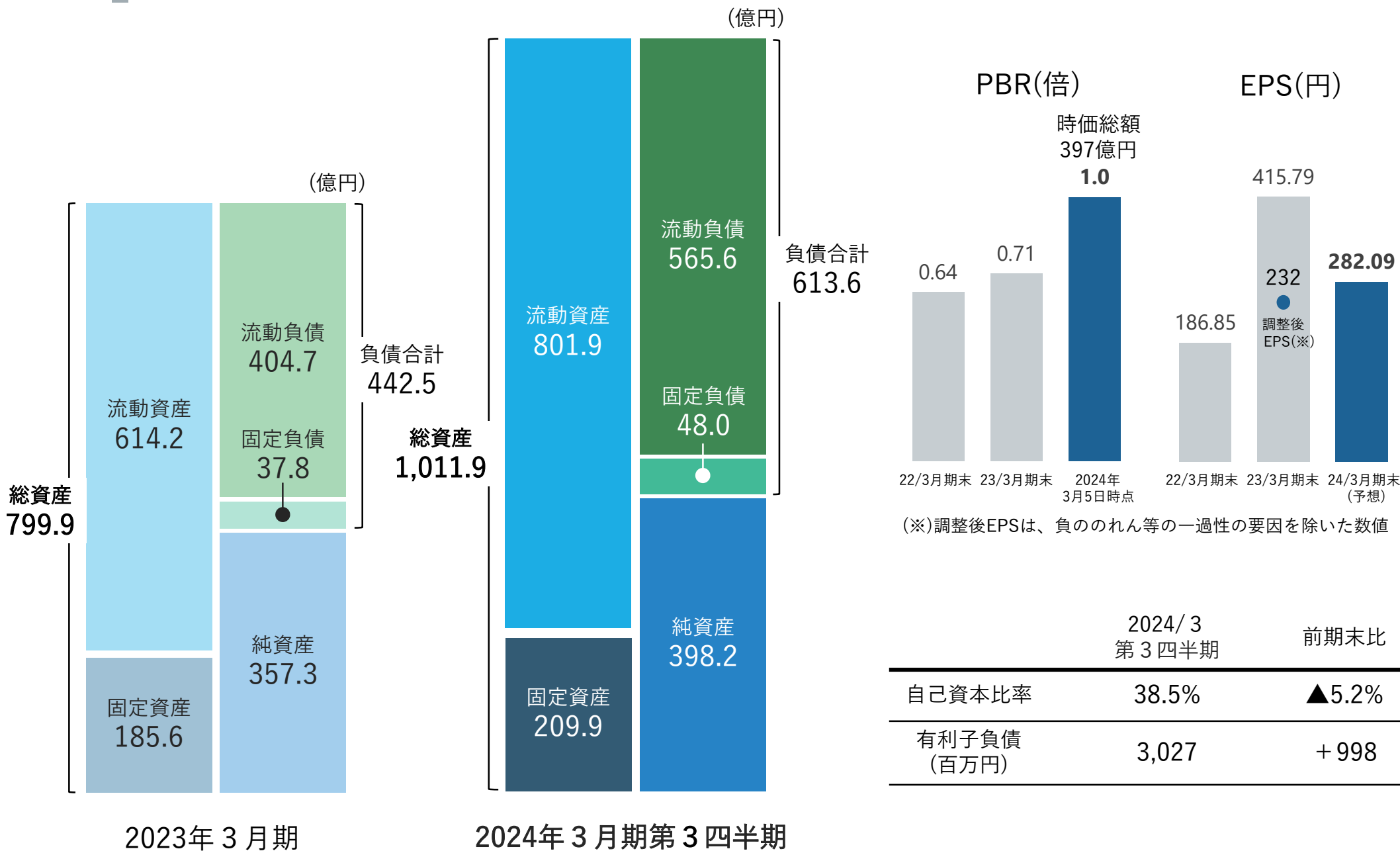
	2023年3月期 第3四半期累計実績	2024年3月期 第3四半期累計実績	増減率 (前年同期比)
受注高	690.4 億円	<b>689.8</b> 億円	▲0.1 %
受注残高	642.7 億円	<b>608.1</b> 億円	▲5.4 %

# 連結当期純利益のウォーターフォール分析 (23/3 3Q vs 24/3 3Q)

- 売上総利益の増加で販管費の増加を打ち返し、営業利益増加
- 持分法投資損失の解消で営業外損益改善



# 2024年3月期 第3四半期 バランスシート

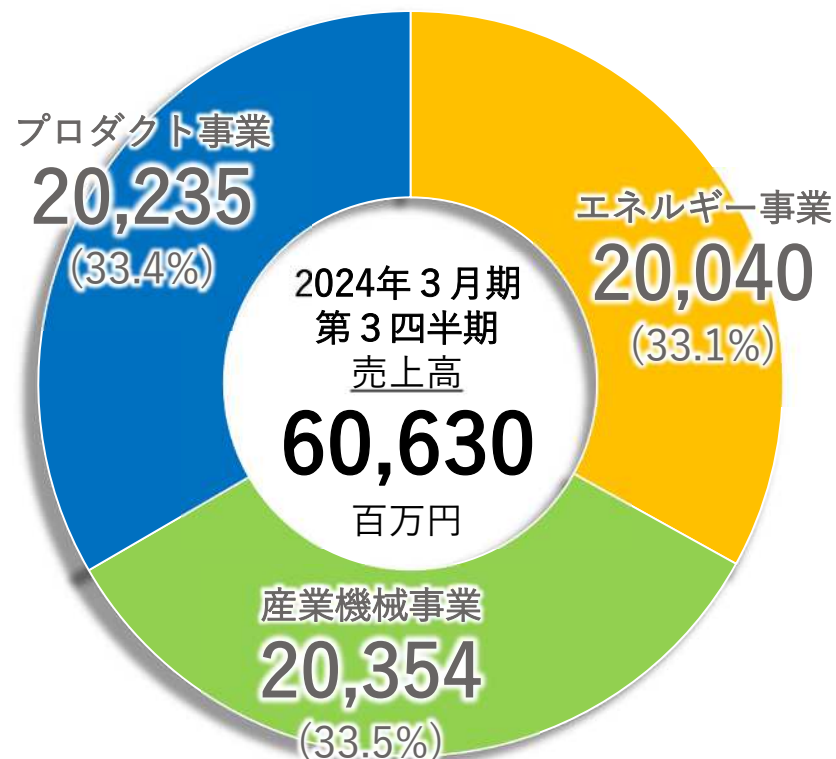
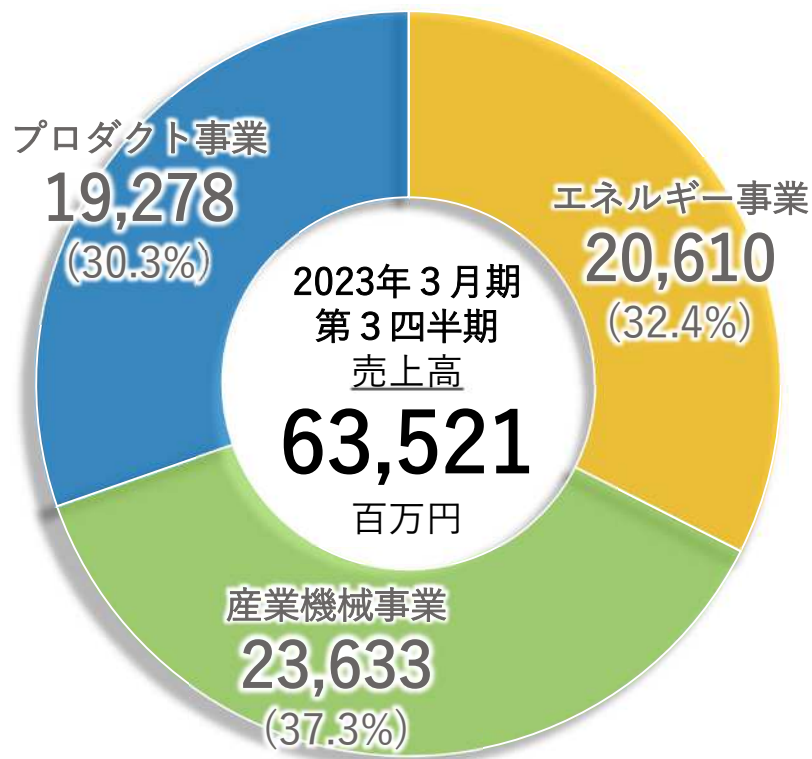


	2024/3 第3四半期	前期末比
自己資本比率	38.5%	▲5.2%
有利子負債 (百万円)	3,027	+998

# セグメント別 売上高

(百万円)

(百万円)

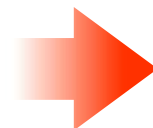
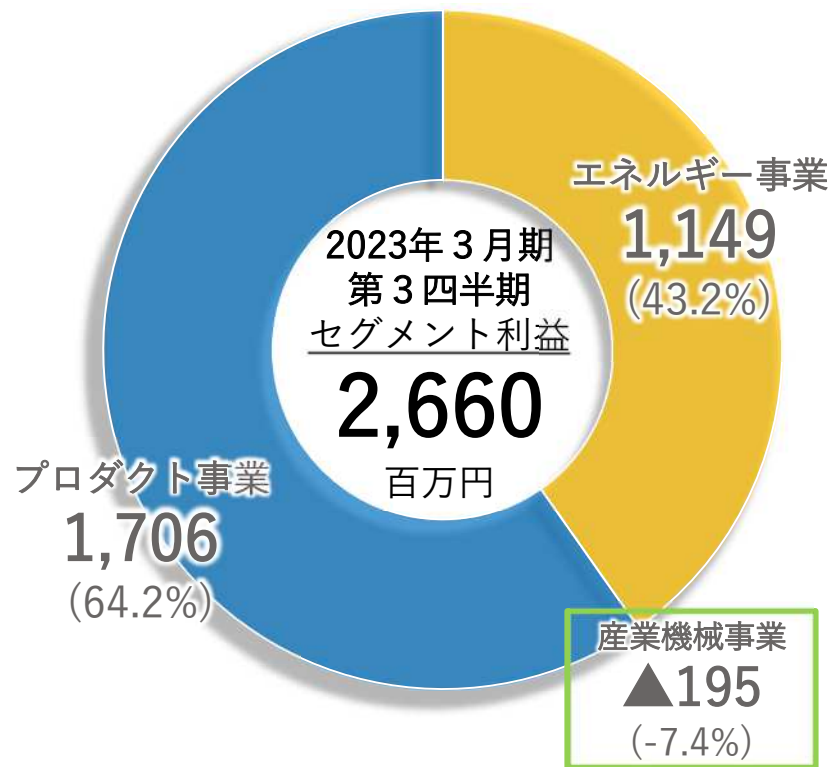


	23/3 3Q	24/3 3Q
エネルギー事業	20,610	20,040
産業機械事業	23,633	20,354
プロダクト事業	19,278	20,235
<b>合計</b>	<b>63,521</b>	<b>60,630</b>

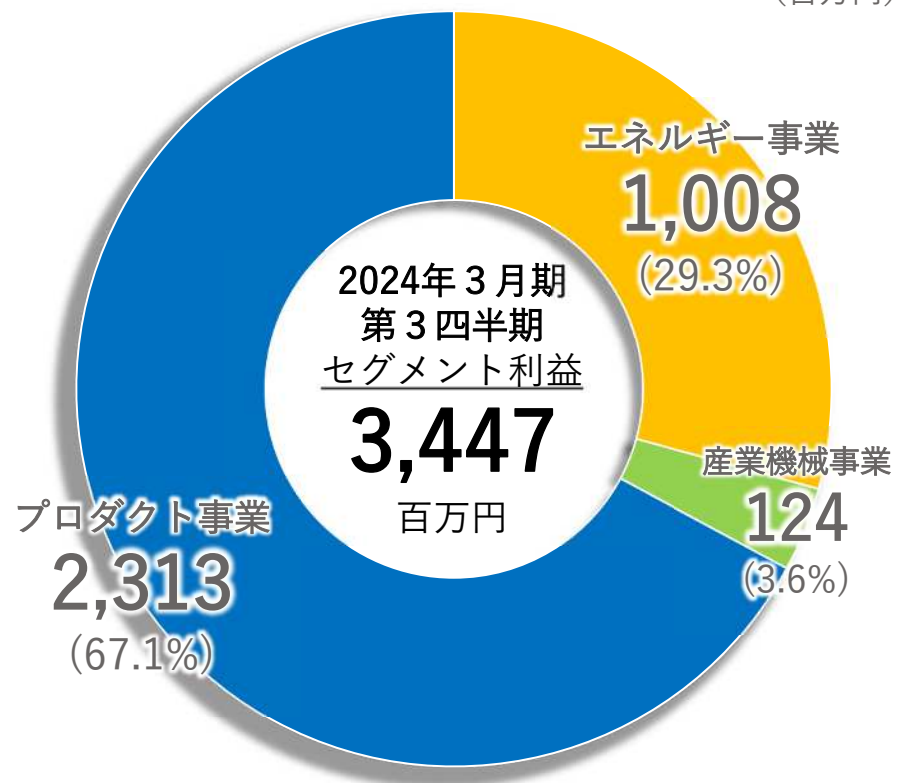


# セグメント別利益

(百万円)



(百万円)



	23/3 3Q	24/3 3Q
エネルギー事業	1,149	1,008
産業機械事業	▲195	124
プロダクト事業	1,706	2,313
合計	2,660	3,447

# セグメント別決算概要一覧

(億円)

	売上高			セグメント利益		
	2023年3月期 第3四半期 累計実績	2024年3月期 第3四半期 累計実績	増減額	2023年3月期 第3四半期 累計実績	2024年3月期 第3四半期 累計実績	増減額
エネルギー事業	206.1	<b>200.4</b>	▲5.6	11.4	<b>10.0</b>	▲1.4
産業機械事業	236.3	<b>203.5</b>	▲32.7	▲1.9	<b>1.2</b>	+3.2
プロダクト事業	192.7	<b>202.3</b>	+9.5	17.0	<b>23.1</b>	+6.0
合計	635.2	<b>606.3</b>	▲28.9	26.6	<b>34.4</b>	+7.8

# セグメント別受注残高

(億円)

	受注残高	受注高	販売実績	受注残高		
	2023年3月期 期末	2024年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	2024年3月期 第3四半期	前期末比 増額	前期末比 増加率
エネルギー事業	<b>197.6</b>	267.9	200.4	<b>265.1</b>	+67.5	+34.2%
産業機械事業	<b>209.5</b>	193.3	203.5	<b>199.3</b>	▲10.1	▲4.9%
プロダクト事業	<b>117.4</b>	228.5	202.3	<b>143.6</b>	+26.1	+22.3%
合計	<b>524.6</b>	689.8	606.3	<b>608.1</b>	+83.5	+15.9%



# 資料編

## 沿革①

1947.10 旧三菱商事株式会社の解散に伴い、同社 関係者が門司市（現 北九州市門司区）に資本金195千円にて当社設立

1948～1951 日本各地に事務所設立（長崎、福岡、大阪、広島、東京、高松）

1961.10 株式を東京証券取引所第一部に上場

1974.01 ドイツ（デュッセルドルフ）に現地法人 Seika Sangyo GmbH を設立

1983.05 台湾（台北）に台北事務所を開設

1983.11 ドイツに（株）鶴見製作所との合併会社 Tsurumi(Europe)GmbHを設立

1994.04 アメリカ（ロサンゼルス）に現地法人 SEIKA MACHINERY INC.を設立

2000.07 韓国（ソウル）にソウル支店を開設

2001.08 登記上の本店を北九州市小倉北区から東京都千代田区へ移転

2004.01 中国（上海）に現地法人西擘貿易（上海）有限公司を設立

## 沿革②

2005.04 日本ダイヤバルブ株式会社を子会社化

2012.04 西華デジタルイメージ株式会社を設立

2012.12 タイ（バンコク）に現地法人Seika Sangyo (Thailand) Co., Ltd.を設立

2015.05 名南共同エネルギー株式会社を設立

2016.03 敷島機器株式会社を子会社化

2019.01 ベトナム（ホーチミン）に現地法人SEIKA SANGYO (VIETNAM) COMPANY LIMITED設立

2020.10 セイカダイヤエンジン株式会社を設立

2022.04 東証プライム市場へ移行

2022.06 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行

2023.03 株式会社TVEの株式を取得（持分法適用会社化）

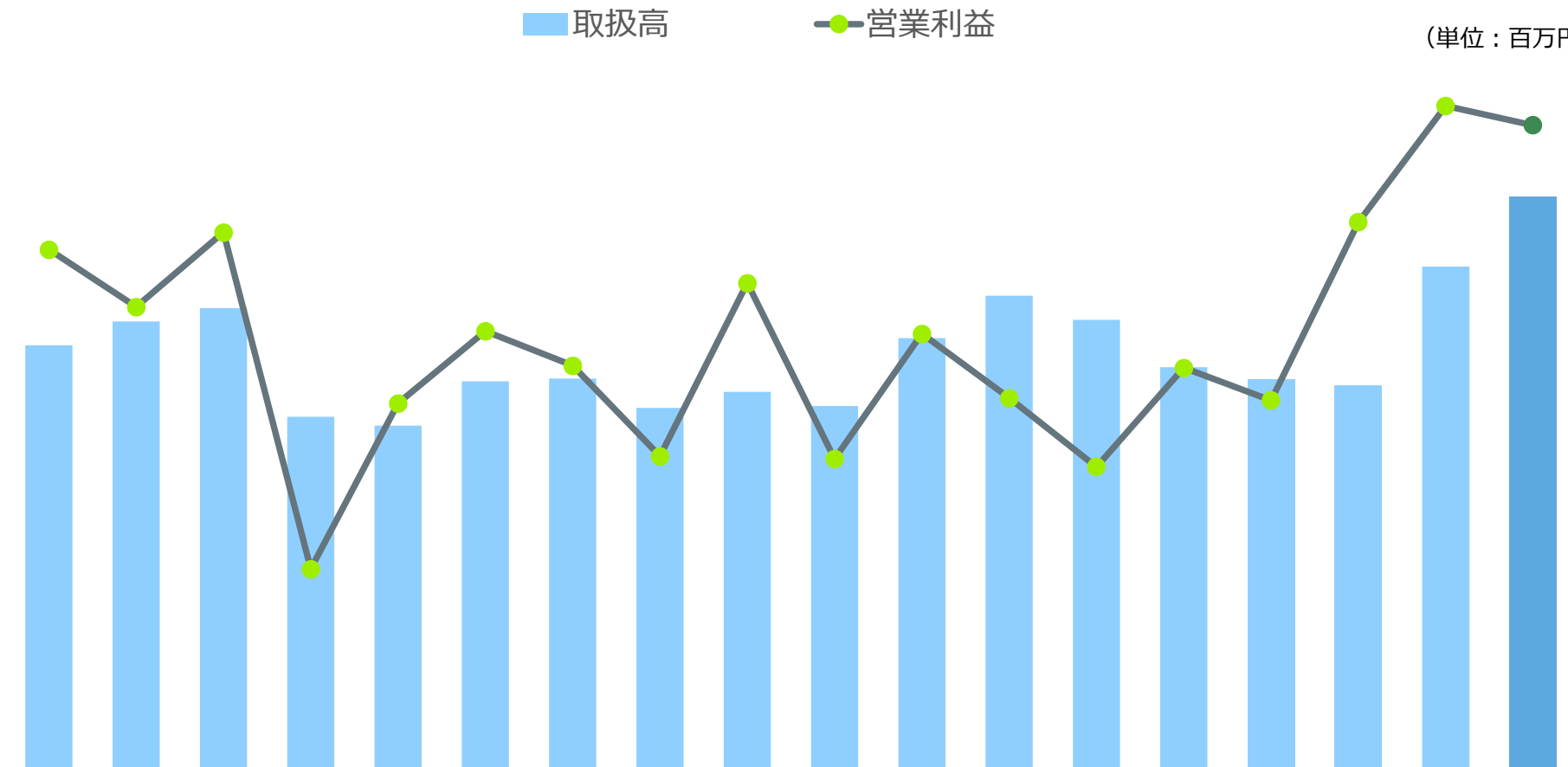
2023.11 台湾西華産業股份有限公司を設立

# 業績の推移（連結 取扱高・営業利益）

■ 取扱高

● 営業利益

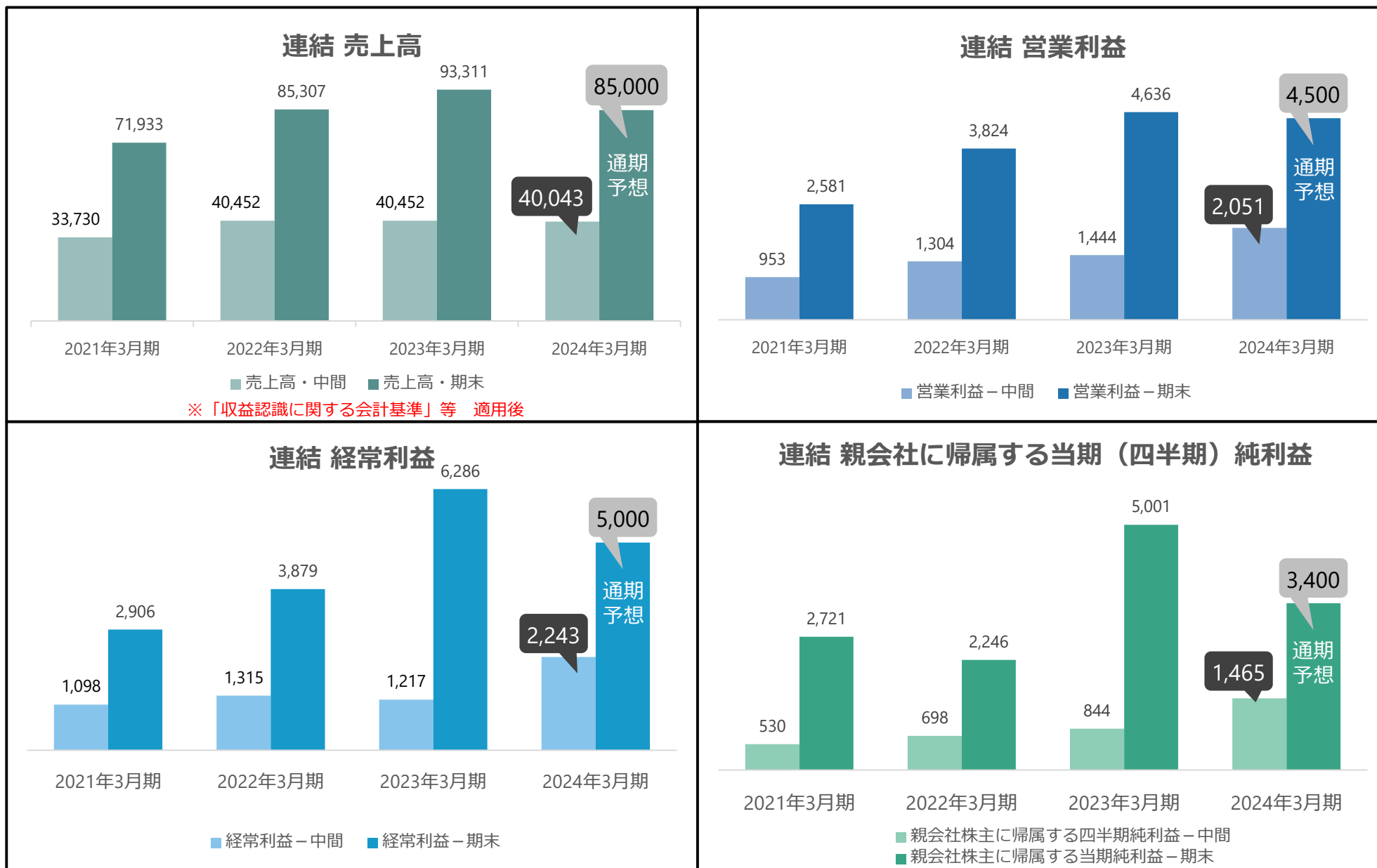
(単位：百万円)



	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3 予想
■ 取扱高	148,307	156,588	161,261	123,394	120,243	135,717	136,670	126,487	132,033	127,101	150,742	165,585	157,145	140,677	136,273	134,261	175,741	200,000
● 営業利益	3,634	3,234	3,754	1,406	2,561	3,065	2,824	2,193	3,400	2,174	3,046	2,598	2,118	2,809	2,581	3,824	4,636	4,500

※「取扱高」については、「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合における数値となります。

(単位：百万円)

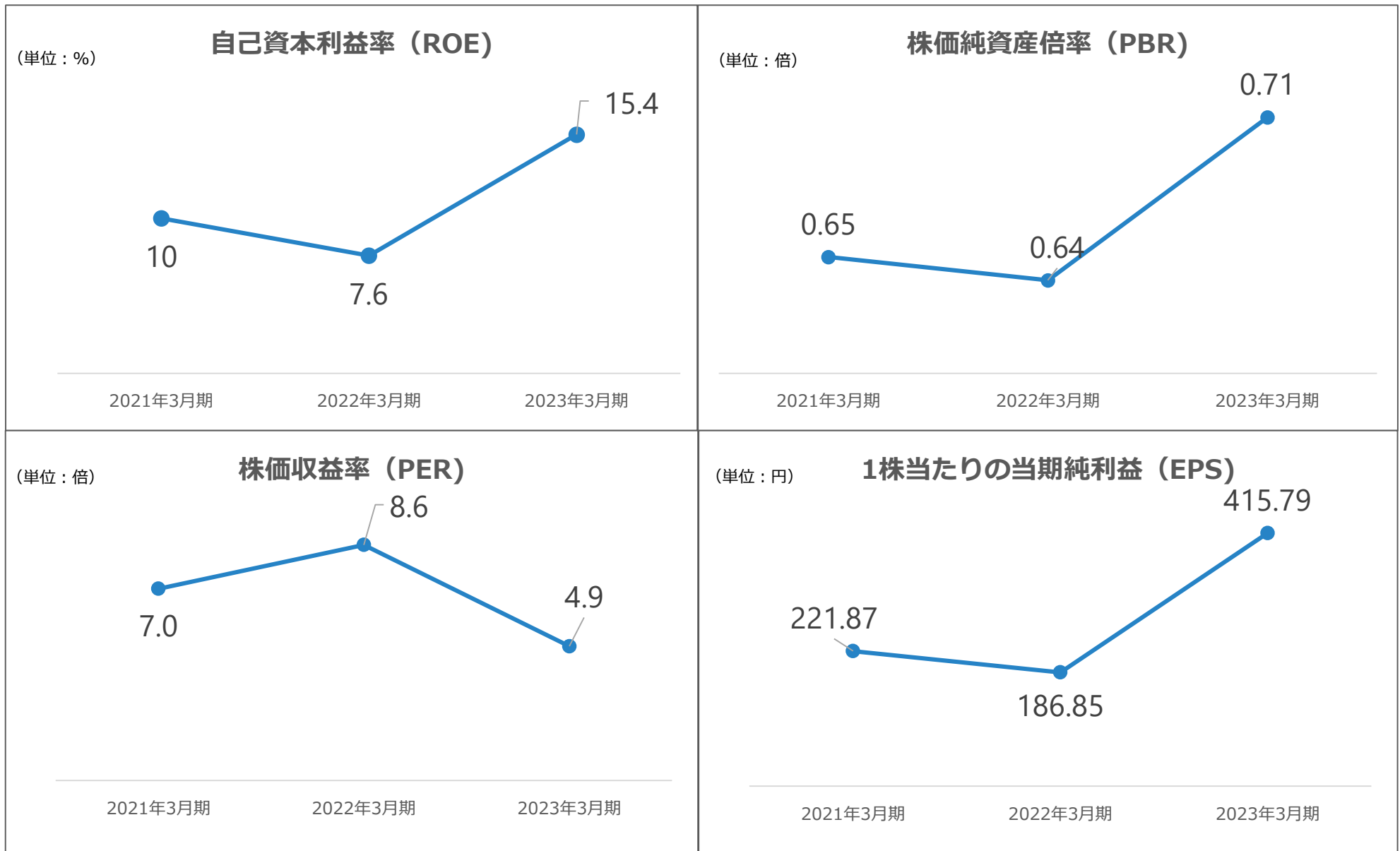




# 2023/7/28~2024/3/1における株価と出来高推移



# 経営指標の推移



## 2023年4月～2月 トピックス一覧

4月1日	三菱重工業株式会社の原子力発電所設備関連の販売代理店業務を開始
5月26日	中期経営計画「VIORB2030 Phase1」策定
6月8日	サステナビリティ委員会設置
7月28日	個人投資家向けオンライン会社説明会開催（大和証券株式会社）
8月1日	西華産業グループ会社セイカダイヤエンジンによる株式会社エイトノットとの資本業務提携契約締結
8月10日	マテリアリティ（重要課題）の特定
8月23日	個人投資家向けオンライン会社説明会開催（auカブコム証券株式会社）
9月29日	セイカダイヤエンジン(株)による藻場造成に向けた協議会設立
10月25日	(株)シェアードリサーチによるアナリストレポート公開
11月10日	台湾西華産業股份有限公司を設立（2024年1月1日 営業開始予定）
11月17日	統合報告書 発刊
11月24日	IFA向け会社説明会開催（株主手帳）
11月29日	個人投資家向け会社説明会開催（岡三証券株式会社）
12月15日	長期経営ビジョン「VIORB 2030」SDGs応援ファンド出資先／レナテック社 「第38回（令和5年度）神奈川工業技術開発大賞(未来創出賞)」受賞
12月27日	ラジオNIKKEI「経営トップに聞く！強みと人材戦略」出演（代表取締役社長 櫻井）
2024年1月11日	能登半島地震における日本赤十字社への寄付
1月31日	西華産業グループ会社セイカダイヤエンジンによる株式会社田中造船の株式取得契約締結
2月21日	個人投資家向け会社説明会開催（日興アイ・アール株式会社）

## 【域活性化・支援活動】

- 能登半島地震発生における日本赤十字社への寄付
- 赤い羽根共同募金への寄付
- 日本赤十字社への寄付
- 漁船海難遺児育英会への寄付
- 余剰カレンダー・手帳の寄付（フードバンクTAMA）
- 災害備蓄品の寄贈（NPO法人FUKUSHIMAいのちの水）
- 丸の内キラピカ作戦（地域清掃活動）に参加
- 社員のボランティア活動参加の支援



カレンダー・手帳の寄付。  
傷つかないように丁寧に詰めました。



丸の内キラピカ作戦（地域清掃）  
に参加しました。

## 【人道支援活動】

- 難病児への支援活動「ア・ドリーム・ア・デイ IN TOKYO」への寄付
- 古着deワクチンへの支援
- ペットボトルキャップ収集（世界の子どもにワクチンを日本委員会）
- 使用済み切手収集・寄付（日本キリスト教海外医療協力会）



使用済み切手の寄付。  
段ボール3箱にもなりました。

